

## 5 調査の方法

この調査は、厚生省大臣官房統計情報部、都道府県・保健所を設置する市・特別区および保健所の協力を得て実施された。調査は配票自計・密封回収方式によって行った。(三田房美記)

## 第70～74回人口問題審議会総会

第70回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第1会議室において、平成9年7月16日(水)15時00分より17時00分まで開催された。学識経験者からのヒアリングが終わり、事務局において整理されたメモ(今までの意見)を基に、今後の進め方を議論した。整理されたものはドラフトであり、さらに整理し議論することとなった。

第71回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年7月25日(金)14時00分より16時00分まで開催された。仙台市において7月7日、「少子化を考える市民会議」が、大阪府において7月10日、「少子化を考える府民会議」がそれぞれ開催され、岩淵勝好、宮武剛委員よりその概要が報告された。また、三沢孝労働省大臣官房政策調査部総合政策課長、名取はにわ総理府内閣総理大臣官房男女共同参画室長から、意見陳述があった。

第72回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年9月10日(水)10時30分より12時30分まで開催された。香川県において8月27日、愛知県において9月9日、それぞれ「少子化を考える県民会議」が開催され、阿藤誠、岩淵勝好委員よりその概要が報告された。また、中間まとめに向けての討議が行われた。

第73回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館特別第9会議室において、平成9年9月18日(木)15時00分より17時00分まで開催された。前回に引き続き、中間まとめに向けての討議が行われ、その議論に基づいて、起草委員会において、人口問題審議会としての案を作成することとなった。

第74回人口問題審議会総会は、中央合同庁舎5号館講堂において、平成9年9月26日(金)15時00分より17時00分まで開催された。麻生圭子エッセイスト、河野真理子キャリアネットワーク代表取締役常務、黒田あゆみNHKアナウンサー、福島瑞穂弁護士、前田正子ライフデザイン研究所主任研究員の5人を招き、少子化の原因・対応方策に関するヒアリングを行った。(金子武治記)

## 日本人口学会関東・東北地域部会1997年第1回研究報告会

本年度から装いも新たに発足した日本人口学会関東・東北地域部会の第1回研究報告会が7月26日、中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)で開かれ、次の4題の報告が行なわれた。

(1)大都市の少子化現象と住宅との関係について

白紙利恵(日本総合研究所)

(2)男女平均余命の格差について

高濱美保子(国立公衆衛生院)

(3)米国における殺人について：犠牲者は誰？

柳下真知子(ポピュレーション・レファレンス・ビューロー)

(4)マルサスが人口のチェックに「道徳的抑制」を加えた時代的背景

原剛(城西大学)

演題は上記のように多様であり、おのおの演者と参加者の間で活発な質疑応答が行なわれた。

(佐藤龍三郎記)

## 日本家族社会学会大会

第7回日本家族社会学会が、1997年7月24日(木)～7月25日(金)に、早稲田大学国際会議場において開催された。大会では『家族社会学の回顧と展望—1970年代以降—』と題してシンポジウムが開催された。5人の報告者より、以下のようなテーマ・視点からの報告があり、討論者森岡清美氏、落合恵美子氏を加え、家族社会学全体の理論や方法論についての活発な議論がなされた。

1. 「少子・高齢化と世帯・家族の変化」では、少子化と高齢化を中心に、人口学的アプローチからの変化を捉える。  
渡辺吉利(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「ジェンダー論」では、フェミニズム論やジェンダー論の視点から、近代化論からの主婦の誕生、共働き・性別役割論、男性論、母性論などの研究のレビュー。  
山根万里(愛知教育大学)
3. 「家族問題・家族病理」では、離婚・非行・アルコール依存症・婚外出産などこれまで家族病理とされてきたものをレビューし、新しい家族スタイル論から家族問題を位置づけていく。  
清水新二(国立精神保健研究所)
4. 「家族福祉政策」では、これまでの家族福祉に関する研究を統括し、これからの家族政策の課題を盛り込む。  
下夷美幸(恵泉女学園大学)
5. 「家族制度・変動論の家族社会学における意味と意義」では、日本での家族制度・変動論の研究レビューとその意味づけについて論じる。  
牟田和恵(甲南女子大学)  
(新谷由里子記)

## 経済統計学会第41回全国総会

経済統計学会第41回全国総会は、1997年9月27日(土)、28日(日)の2日間、京都大学を開催校とし、校内の法経2番教室で行われた。学会事務局によると104名の参加があり、6つのセッションがもたれた。その内、4つはシンポジウム形式のものであり(「国民経済計算の諸問題」、「高齢化社会と統計」、「社会統計学の理論と方法」、「日中社会統計学の課題」)、人口に関連する報告は以下のとおりである。

### セッション3 高齢化社会と統計

報告者	論 題
渡辺吉利(国立社会保障・人口問題研究所)	「配偶関係と世帯の人口構成」
廣嶋清志(島根大学)	「高齢者に関する日本の統計の現状と問題点」
宮崎憲治(京都大学)	「一般均衡アプローチによる社会保障と人口問題の計量分析」
予定討論者	山本千鶴子(国立社会保障・人口問題研究所) 福島利夫(専修大学)
座長	伊藤陽一(法政大学)

(山本千鶴子記)